

若年性認知症支援モデル事業 事業実施報告



軽作業サロン
フリーサロン【あしたば】

就労型支援 フリーサロン【あしたば】

名前の由来

【フリーサロン】

➤ 自由な場所・空間

【あしたば】

➤ 夕方に葉を摘んでも翌日には新芽が出ると言われる程強靱で発育が早い植物

※生命力に満ち溢れている自由な空間・その人がその人らしい過ごし方の出来る場所を創りたいという願いを込めて命名

モデル事業の概要

(1) 就労型支援

①目的

若年性認知症本人の社会参加意欲に応えると共に、就労型支援活動を通じて他者とのコミュニケーションや地域との交流を行い、本人の居場所づくりをしながら生きがいを感じて活動できる場所を提供する。

モデル事業の概要

②事業内容

- 特別養護老人ホーム内のスペースを活用した就労型のデイサービス。
- 介護保険サービスの利用になじまない人が対象。
- 当日通所してからその日の過ごし方をスタッフと相談して決める[フリースタイル]が基本コンセプト。利用者が個々の状態に応じた軽作業(買物・調理・掃除等)を実施することで、若年性認知症本人の社会参加意欲に応えると共に、退職後の居場所づくりに取り組む。
- 精神医学・臨床心理学・作業療法等各専門職と連携し、若年性認知症に適したデイプログラムを開発する。

基本コンセプト

- その人がその有する能力を駆使してその人らしい一日を過ごせる環境の提供。
- 個々の選択により一日の過ごし方を組み立て実践。実施しながら軌道修正を随時行える様、スタッフが常時寄り添い支援する。
- 事務的補助等の【就労型プログラム】とスポーツ・レクリエーション等の【生きがい活動】を核とした各種プログラムの企画・実践。

サービスの提供状況

- **【実施日】** 月曜日～金曜日
- **【実施時間】** 9:00～17:00
- **【定休日】** 土・日曜日・祝祭日・年末年始
(12/26～1/5)
- **【利用定員】** 実施日1日最大4名まで
- **【提供地域】** 東京都全域
- **【送迎区域】** 江戸川区葛西地域
(新大橋通より南側エリア)
- **【利用料金】** 原則無料
(昼食費・活動に関わる費用は実費)

利用者の受入状況

No	氏名	性別	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考
1	A	男	○		○			
2	B	女		○	○	○	○	
3	C	男		○		○		
4	D	女			○	○	○	
5	E	男			○		○	現在入院中
6	F	男	○	○		○	○	
7	G	男	○					
8	H	男	○					
9	I	女		○				8月新規利用開始

事業の実施状況

【就労型支援活動】

事務関係作業

- ◆ラベル作成・ラベル貼り
- ◆書類の仕訳
- ◆ゴム印押し・ナンバリング
- ◆PC入力(複写)
- ◆ファイル解体・処分
- ◆シュレッダー処理



- ◆郵便物の仕訳
- ◆郵便物の宛名書き
- ◆郵便物の受渡し・発送代行
- ◆刊行物の配布
- ◆コピー・FAX代行
- ◆書類の封入



事業の実施状況

【就労型支援活動】

衛生関係作業

- ◆洗車・室内清掃
- ◆ペットボトルの処理
- ◆洗い物
- ◆網戸の掃除
- ◆水まき



- ◆牛乳パックの処理
- ◆洗濯物たたみ
- ◆蛍光灯の掃除・交換
- ◆段ボールの処理



事業の実施状況

【就労型支援活動】

生活関係作業

- ◆家具等の組立
- ◆食事づくり(あしたば食堂)
- ◆買物代行
- ◆農園の管理

- ◆ウェルカムボードの記入
- ◆おやつづくり
- ◆花壇の水やり



事業の実施状況

【生きがい支援活動】

- 軽運動
(パターゴルフ・グランドゴルフ・卓球・キャッチボール・ウォーキング・筋力トレーニング・体操等)
- 手芸・工作活動 (木工・金工・フェルト・刺子・クッション作り等)
- 園芸活動 (花壇・菜園の維持・管理等)
- 外出支援 (地域散策・外食・公共交通機関体験等)
- TV・DVD鑑賞
- 活動日記の作成
- 買物・調理活動
- その他各種レクリエーション活動
- 地域専門学校学生とのプログラム交流 (週2回、各2名の学生による)
- ボランティアの協力による小物作り・調理の実施

事業実施状況

【生きがい支援活動の様子】



事業実施状況

(2) 家族支援

- 専門職を交えての勉強会を開催し、介護方法の指導・助言を行う。
- 家族会を開催し、悩み相談や情報交換を行う
- 家族交流会の実施から始まり、家族会の発足へ向けて働きかけていく。
- 参加者については【フリーサロンあしたば】の利用登録者に限らず、同じ若年性認知症を抱えた家族の方々の参加についても対象とする。

事業実施状況

家族交流会実施実績

【第1回】

日 時 平成22年3月23日(火) 14:00～16:00
場 所 なぎさ和楽苑 会議室
内 容 モデル事業の説明・家族・職員との交流・意見交換
※参加家族数4



【第2回】

日 時 平成22年5月8日(土) 11:00～14:00
場 所 なぎさ和楽苑 6Fテラス
内 容 BBQ昼食会・家族・職員との交流・意見交換
※参加家族数6



【第3回】

日 時 平成22年8月6日(金) 18:00～20:00
場 所 西葛西駅 中華料理店
内 容 暑気払い夕食会・モデル事業の活動報告・スタッフとの交流・意見交換
※参加家族数5

事業実施状況

(3) 地域連携

- 行政・医師会・地域包括支援センター・介護保険事業所等、地域の関係機関の参画によるネットワーク会議を開催し、連携体制を構築する。

事業実施状況

地域連携活動実施実績

【ボランティアとの関わり】

- 当苑ボランティア運営委員会にてモデル事業の説明及び今後の活動協力依頼を行う。

日 時 平成22年3月10日(水)

※ボランティア運営委員5名参加



【あしたばネットワーク活動】

- 地域の関係機関等の関係者を対象に若年性認知症についての講座とモデル事業の活動報告会を行う。

日 時 平成22年6月18日(金)

テーマ [地域で支え合う若年性認知症]

講 師 順天堂大学医学部精神医学教室准教授 柴田展人先生

※参加者102名(当苑職員含む)



※平成22年11月23日(火・祝日) セミナー開催予定

事業実施状況

(4) 事業評価

- 定期的な作業部会及びプロジェクトメンバーによる会議にてオブザーバーによる助言のもと、事業展開について評価する。また、本人と家族へアドバイザーである精神科医師による面接を実施、本人の効果評価や家族のストレス度を定期的に調査・分析する。

(5) 普及

- あしたば通信の発行や講座・報告会等の実施により専門職や広く一般の方々に向けて情報を発信する。
- モデル事業を通じて行う若年性認知症に関する普及活動全般を【あしたばネットワーク活動】と総称し、地域連携の枠組みとして実施していく。

現在のモデル事業が 若年性認知症ケアにおいて効果的である点

- 少人数で展開していることでより個別化が可能となり、個々のニーズに応じた希望の実現が展開できる。各種作業を行う際も、自分の役割としての認識を持って取り組める。
- 対価を得るまでの作業を実施することは難しいが、職員の補助的作業を担うことにより事業推進を手助けすることが出来る。その実績を本人達にスタッフが伝えていくことによりさらにモチベーションが向上し、本人の居場所づくりと役割・達成感が満たされることに繋がる。(作業を行うことにより余計な負荷がスタッフにかかるという事ではなく、スタッフの雑務を確実に処理できることにより仕事の効率が上がる)
- 就労型支援活動と生き甲斐活動を並行して実施できるので、軽度の方から中度・重度の方までの対応が可能であり、本人のその日の状況に応じたプログラム展開が出来る。
- 体力を使う事で機能の維持・向上とストレス発散に繋がる。

事業実施上の課題①

- 必然的にマンツーマン対応が必要となり、人件費がかかる。
- 就労型支援活動にて一般社会同様の対価を得ることが事実上不可能であり、利用者が目指す就労活動が生計を支えるレベルである場合、そのニーズに応えられない。
- 中度・重度の利用者の場合、BPSDが出現してしまうと活動が成り立たなくなってしまう。スタッフが対応することは可能であるが、他の利用者への影響が大きく、結果として同じ場所で行動することが困難になってしまう。

事業実施上の課題②

- フリープランの選定にはある程度のメニューをパターン化する必要がある。これを多様化しなければ個々のニーズに対応することが出来なくなってしまう。従って沢山のメニューを用意し、それに対応出来る必要物品の準備や対応するスタッフの教育を行う必要がある。
- 一般の成人と変わらない身体能力を維持している方も多く、スタッフもそれに対応出来る人材の確保が必要である。
- 特養の母体を絡めての就労型支援活動を展開するには作業を依頼する特養側にも窓口となるスタッフを配置し、コーディネートやバックアップを行える体制を構築しないと特養全体としての関わりが希薄になってしまう。
- 利用者の方に活動の意味合いをきちんと理解して頂き、納得して活動に参加してもらう為の配慮が必要。

特養併設にて若年デイサービスを提供する メリット・デメリット

【メリット①】

- 多くの介護スタッフや各専門職を抱えており、専門性の高いチームケアが展開できる。
- 認知能力が軽度である場合と中度・重度である場合では対応方法が異なり、デイ単体の事業所では状態の変化により利用が継続できなくなる場合も多い。特養併設ならば、本人が慣れ親しんだ環境のまま、軽度から重度まで対応することがハード・ソフトの両面にて可能である。
- 母体が大きく様々な部署が存在するためその中で一つの社会を構築できる。一般社会での就労活動が困難な状態であってもこの母体の中での社会活動が比較的容易に展開できる。

特養併設にて若年デイサービスを提供する メリット・デメリット

【メリット②】

- 特養を拠点として既に構築されている地域ネットワークを活用し、若年性認知症及びこのモデル事業の啓発活動ができる。
- 将来的に介護保険サービスの利用や施設入所を考えていく必要性が高いことからこの一連の流れを作ることができる。デイやショートステイが併設されていることから状態に応じて在宅ケア・施設ケアを選択しながらケアを受ける環境を長期的に計画していくことが可能となる。

特養併設にて若年デイサービスを提供する メリット・デメリット

【デメリット】

- 特養にてサービスを受けている利用者の方々と若年性認知症の方々との年代が違いため、お互いに交流を望まないケースも存在する。
- 若年性認知症利用者が望む社会参加と就労活動は同世代の社会が基本となっており、高齢者ばかりである特養の環境に対して違和感を感じ、活動を拒むケースも存在する。
- 若年性認知症利用者は、一般成人と大差なく見える場合も多く、特養の中では利用者と認識されない場合がある。母体の大きな組織であるため利用者の情報提供やモデル事業の概要等内部での啓発活動を徹底していないと事故につながる可能性がある。

若年性認知症に特化した サービス展開をするために必要な要素

【人員配置シュミレート】

※利用人数定員4名で設定

必要と考える人員

➤相談員1名 介護職員2名 看護職員1名 作業療法士1名

定員4名に対し職員は3～4名体制

・介護職員2名は専従（相談員・介護職員の兼務可能）

・看護職員・作業療法士は他事業との兼務は可能。

ただし、常勤換算1名分を満たすことが望ましい

若年性認知症に特化した サービス展開をするために必要な要素

【人員配置の根拠】

➤ 相談員

関係機関との連絡・調整や家族との相談等、総合窓口

➤ 介護職員

フリープラン実践・利用者の支援全般

➤ 看護職員

利用者の体調管理・医療機関との連携

➤ 作業療法士

認知能力・身体能力に応じた活動の選択・効果確認

若年性認知症に特化した サービス展開をするために必要な要素

【サービス展開】

- 他のサービスと区分けされたフロアでの実施
- 個室もしくはパーテーションで仕切られた作業スペースの確保
- 希望者には送迎が出来る体制
 - ・他事業との送迎相乗りの規制緩和
 - ・ヘルパーによる送迎対応の規制緩和

若年性認知症に特化した サービス展開をするために必要な要素

【報酬関係①】

- 若年性認知症利用者に特化したサービスを実施する事業所に対しての評価加算
- 主治医、専門医との医療連携加算
- 各専門職配置の体制加算
- 送迎実施の加算
- 現在の介護保険デイと同様の利用者受入実績による加算

若年性認知症に特化した サービス展開をするために必要な要素

【報酬関係②】

➤加算にて対応すると限度額管理にて自己負担が発生したり、利用者負担が増大することによりサービスの利用が消極的になる可能性がある。介護保険での給付割合を10割にするもしくは若年性の利用者には認定証を発行し、利用負担を免除・軽減する等の対応が必要と思われる。